

守大助さん面会記 えん罪・仙台北陵クリニック事件

10月27日(金)札幌の会

今回は同行なく一人で刑務所にバスで行きました。駅で買ったサンドイッチを食べながら刑務所の売店の待合室で1時まで待って、受付で「今日は一人で来たの?」と言われビックリ4年ぶりなのに。面会前に「ぼろこ」と「るるぶ」週刊誌、佐々木さんからの切手の差入れをして面会待合室へ。

笑顔の大助さんに、言葉の前に、涙が溢れ顔を覆ってしまいました。「元気そうで安心しました」「みんなの前ではね」精一杯の笑顔?なんですね。今の仕事は「人参、芋、大根など約200キロの下ごしらえです。今人参が終わって先輩に面会に行行って来ます」と断ってきました。「切るのは機械が多いが乱切りなどは包丁です。朝は5時半夕方6時頃まで」と大助さんが話しました。

救援会白石・厚別支部での1000人の署名をあつめたこと、札幌、帯広、苫小牧会の宣伝行動や篠原さんのお話がとても良くて、その後の署名集めに多くの方が頑張った」など一方的に話しました。

大助さんは「及川さんが元気な内に札幌に行きたかった。篠原さんは同僚ですからね、話がわかりやすいと思います」「何か差し入れますか?」と聞くと「手も荒れてないし、必要な物はないです」と30分の面会時間が終了して、仕事に向かえました。

宮坂八重子さん



えん罪・仙台北陵クリニック事件

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行う。

10月6日(金)ご両親

久しぶりの午後の面会、受付に並ぶ人が多かった。目を輝かせて入ってきた息子が少し照れていた。

そのわけは?本人は来年になるではと思っていた等級が10月から一段階上がり、社会であれば昇格したとのこと。面会が3回から5回に手紙の発信も5通から7通になりました。仕事も洗浄から食材の下処理になったと、それがまた大変で1000人以上の食材、毎回90キロくらいのジャガイモ、にんじん、玉葱などの下ごしらえを通常2から3人での作業。

16年ぶりに使う包丁に力加減が判らず銀杏切り、乱切りなどに戸惑い悪戦苦闘しながらも精神的にはいくらか楽になったと笑顔で話していた。9月12日には阿部弁護士が面会してくれ用意周到された最終意見書提出に感謝、最後は裁判長が科学的真実に目を背けていることなく真摯に向き合うことを願っていた。この日は包丁の使い方から切り方など初めて包丁を使う子供の手を取り教えるように母親の感触を味わってきました。翌日は水戸での布川50周年に参加させて頂きました。



激励先〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 2017年10月 111号
●11月の面会日7日、14日、22日、30日、10日ご両親。12月の面会は大助さんの休みに合わせて
□面会申込み/□ 国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953
E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740
E・mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp



「くり返すな冤罪! 11・9市民集会」200名が参加
ゴビンダさんや守ご夫妻、桜井さんもマスコミ10社

10月25日(水) 茨城・救援会ひたちなか支部

仙台高裁が年度内に判断される中、千葉刑務所の守大助さんへの面会激励が実現しました。

刑務所を訪ねるのが初めて、人見忠男副支部長と水戸支部1名と3名で面会しました。受付時間になると用紙が配られ、住所、氏名、生年月日等を記入。


2枚目の用紙には面会の理由、面会の回数、通信(手紙)は何回かなど、事細かに記入しなければならず戸惑うばかりでした。身分証明証を提出し、身元確認され、ようやく刑務所の正門へ。中に入り、番号のあるバッチを付けてロッカーにすべての荷物を預けて待合室で待機。

暫くすると番号を呼ばれ、面会室へ入りました。ガラスの向こうに大助さんが刑務官と入室してきました。大助さんと初めての面会で元気な姿を見て安心しました。

30分の面会時間と決められ、タイマーがやけに気になり会話は早口になってしまった。

話の切り出しはやはり仕事からで、早朝から1000人分の食事を作る様子と包丁の持ち方など話が続きました。外の様子も聞いて見ました。

総選挙あとの政治状況など詳しく知っていて、テレビや新聞・雑誌等が差入れ入れでは豊富でした。面会中、大助さんは無実という言葉を何度も口にしていました。当然のことですが、無実の彼を1日も早く救出しなければと心を強く帰宅しました。

 坂本公則さん



10月25日(救援会水戸支部)

大助さんに会いに千葉刑務所に行って来ました! 初めて会うということで前日までとても緊張しましたが当日は緊張しませんでした。

でも待合室にいる時に壁に寄りかかってとてもヒンヤリとした冷たさに変な緊張が出てきたが大助さんに会った瞬間、目が合い会釈して一気に緊張感がほぐれて笑顔と共に心が温くなりました。

面会が始まり大助さんから「女性の方は宇野さんって判ります!」という言葉にとっても嬉しかったです。前に母が送った色紙に総会の時に写真があり、私の制服姿があったそうでそれを覚えてくれたらしく「あの制服を着ていた子が20歳?~俺も29歳で逮捕もう45歳だもんな?~」と大助さん。

面会が終わってから1年経つのが早いと思っていてのに刑務所の暮らしが早いと感じるのかな?遅く感じるのか?と疑問に感じました。

事件について「本当にやっていたら再審を訴えないし、みんなとも会えない。やってないから訴える、みんなさんとも会えるんだ。裁判所はきちんと証拠を見て判ってほしい、裁判所が認めないとダメだから・・・」こみ上げる怒りを見せてくれたり、「父は元気そうに見えるが母は見る度に小さくなっていくようで、申し訳なく思う」と母を心配する気持ちを話してくれました。

大助さんが「今、楽しみは支援者に面会が出来ることで楽しい気分部屋に戻れる」と話していた。

また、「手紙を出せるのが増えたこと、お菓子が月2回食べられる。両親に毎月会える」こと、やっぱり親と会えるのって何より1番の力になるんだと思いました。

また面会に来て楽しいお話が出来たらいいなと思っています。

宇野朱音さん



茨城の支援者

